

素粒子原子核研究所活動報告(2) 安全グループ

2025 年 6 月

安全巡視と安全推進委員会

安全グループは、実験グループが安全に研究を遂行できる適切な実験環境の構築と素核研職員の安全意識向上を目的として活動しています。その中でもっとも基本的な活動は安全巡視です。1年間を通して各実験グループのすべての施設を巡視しており、実験活動が活発な研究場所は1年に2回実施しています。この巡視には安全グループだけでなく、他の実験グループにも参加を呼びかけており、異なる視点からの意見をもらうことで、新たな気づきや自グループへのフィードバックを得られることを期待しています。各巡視の際には担当者を決め、指摘事項を報告書としてまとめてもらい、安全推進委員会で発表しています。この委員会は安全グループに加え、各実験グループの安全担当者、機構の安全衛生推進室からの衛生管理者で構成されており、月1回開催し、安全に関する情報共有と議論を行っています。安全巡視の指摘事項を委員会の場で全実験グループに共有することで、素核研全体としての安全向上に寄与することを期待しています。

本年度からの変更としては、北 CH の運用について新たな委員会が設けられ、この体制で安全を含めた管理を行なっていくこととなりました。北 CH は素核研の実験施設の中でも老朽化が深刻な場所で、雨水の侵入などの指摘が多く発生している状況です。今後は新体制のもとでと安全管理に協力し、現状の改善などのため、施設の関係者とも適宜連絡をとりつつ、安全な環境確保に対応していく予定です。



安全巡視の様子

筑波実験棟天井工事その後

昨年夏、筑波実験棟の天井工事に伴う高所作業中に、業者関係者が負傷する事故が発生しました。機構では、本事故の原因究明および再発防止策の検討のため、委員会を設置し、昨年末に委員会から提言を受けました。その後、提言に基づき対策を実施し、今年より作業を再開しました。安全グループでは、作業再開にあたり、高所作業の安全確保をより一層徹底するため、特別巡視を週 2 回実施しました。特に高所作業中の業者の方の墜落制止用器具の使用などに注目し巡視しました。この特別巡視の結果と作業の進捗状況は、安全グループ内で共有し、常に状況を把握できるよう努めました。この巡視は、高所足場の設置期間である 3 月末まで実施いたしました。加えて、作業前の朝礼に必ず参加し、作業者の健康を含め、日々の作業過程上における問題点への注意喚起を行い、安全な作業遂行に努めています。



作業前の朝礼

富士実験棟避難訓練

2025 年 4 月に富士実験棟にて避難訓練を行いました。B4 ホールの QUP 冷凍機周辺にて酸欠が発生したという仮定で、警報を発報させて実施しました。警報確認後、安全監視員の方が日英にて避難放送を行い、棟内作業者が階段を使用して、玄関まで避難し、点呼確認まで 5 分以内に完了することができました。左は訓練実施時に階段で避難する様子です。酸欠主任者が警報



解除を指示するまで一連の動作が確認できました。当日は 12 名の参加者があり、訓練後の反省会では、B4 ホールの一部で警報が聞きにくかったなどの報告があり、改善点が明らかになりました。また、避難経路についての質問などがあり情報交換もでき、有意義な訓練となりました。他の研究施設についても適当な時期に同様の訓練を行う予定です。

安全ワークショップの開催

2025 年 3 月に安全ワークショップを開催致しました。これは昨年度に続き 2 回目の開催となります。機構では研究を遂行する上で安全はもっとも重要であると明示しています。しかしながら、昨年度には先に記述した筑波実験棟天井工事に伴う事故や多くのヒヤリハット事例が発生しています。このようなことから、安全の重要性を再認識し、主体的に安全を考えた行動を促すことを目的として今年もワークショップを行いました。プログラムの中の主講演は、AI を用いた安全対策について労働安全衛生総合研究所の方にお話しし、この分野について今後の発展性を含め、話して頂きました。その他には、KEK と海外の研究所の安全についての対策や考え方の違いなどの興味ある報告や各施設の安全対策の好事例の紹介を行いました。ワークショップには 80 名以上の参加者があり、活発な質疑応答が行われ、良い議論を展開することができたと思います。今後も継続してこのような機会を創出していきたいと思います。



ワークショップ会場